

就任のご挨拶



内閣府特命担当大臣
なえ 市 高
たか いち き なえ

このたび、沖縄を担当する内閣府特命担当大臣に就任しました。これまで沖縄には、趣味のスキューバダイビングを楽しむためなどに、度々訪れておりました。沖縄は、個人的にも大好きな場所であるとともに、当時から国として重要な政治課題を抱える場所だと感じておりました。このたび、沖縄という国政上重要な課題を担当する大臣に就任したことは、大変光栄であり、また、その責任の重さに身の引き締まる思いがします。

沖縄担当大臣に就任するに当たっての私の基本的な認識は、本土への復帰以来、政府は沖縄の振興

開発のための諸施策を積極的に進め、その結果、施設整備面を中心に次第に本土との格差が縮小するなど、着実に成果を上げてきました。また、観光やIT産業の振興などにおいても、一定の成果を上げています。一方で、今日なお、沖縄の社会経済は、県民所得の低さや失業率の高さに示されるように厳しい状況にあり、産業の振興や雇用の創出など、自立型経済の構築に向けた一層の取組が重要であるというものであります。本年度は、沖縄振興計画期間10年の中間年度である5年目という節目の年であり、今後の新たな発展に

向けて、各種産業の一層の振興、それを支える人材の育成や科学技術の振興などに、沖縄県や市町村と一体となって取り組んでいきます。私は、以前経済産業副大臣をしていたこともあり、世界から注目される可能性を秘めている沖縄において、私自身の経験も役立てることができればと考えています。

沖縄は、550万人（昨年）もの観光客が訪れている日本を代表する観光地の一つです。この人気の理由は、美しいエメラルドブルーの海、生態系の違うエキゾチックな自然、ホスピタリティ溢れるおもてなし、独特の文化など多くの魅力に満ちているからだと思います。このような沖縄観光の魅力を最大限に生かしながら、沖縄観光の一層の振興を図るため、多様化するニーズに対応した通年型・滞在型の質の高い観光・リゾート地の形成に向けて、精一杯取り組んでいきます。

IT産業については、これまで空き施設の整備や人材育成、税制上の措置を行うなど、重点的な取組を進めてきた結果、この10年で100社以上のIT関連企業が沖縄に新規立地し、1万人以上の新規雇用が生み出されています。今後は、沖縄がアジアのIT産業を

リードするような、高度なIT産業の振興を進めることを考えています。例えば、民間企業からのアイデアを踏まえ、沖縄で高度なソフトウェア開発を行える拠点整備を行う「沖縄IT津梁パーク構想」というプランを検討しています。

沖縄の離島については、自然や伝統文化など多くの魅力がありますが、「島ちゃび」という言葉があるように、物価が高い、高度な医療機関がないといった離島ならではの苦しい面があります。総合病院があるのは石垣島、宮古島及び久米島だけです。そのため、特に医師の確保など医療面の心配を除いていくことを優先的に取り組んでいきたいと思っています。また、各島は個性的で魅力ある地域資源を持っています。これら地域の特性を活かした特産品の開発など、地域振興につながる支援を行っていきます。

沖縄科学技術大学院大学構想は、世界最高水準の自然科学系の大学院大学を沖縄に設立しようというもの。沖縄の振興はもちろん、世界全体の科学技術の発展にも貢献できるという意味もあります。この夢のある構想を前進させ、世界に誇れる素晴らしいものを作っていきたいです。

沖縄の社会資本整備については、自然環境に配慮し沖縄らしい風景を活かしつつ、那覇空港の将来展開への検討や新石垣空港、那覇空港自動車道といった空港、港湾、道路などの交通体系の整備を進めるとともに、台風や大雨による災害などに対処する防災・減災対策、離島架橋、文教施設、医療体制の整備など生活環境の基盤整備を、これからも進めていきます。

基地負担の軽減については、沖縄における米軍の存在が、我が国の安全及びアジア・太平洋地域の平和と安定に貢献する一方で、在日米軍施設・区域の75%が沖縄に集中しており、県民の皆様には大きな負担をお掛けしています。沖縄における米軍施設・区域の整理・縮小は、県民の過重な基地負担を軽減するとともに、土地の有効利用や自立型経済の発展を図る観点からも積極的に取り組んでいきます。特に、普天間飛行場の移設・返還については、新たに設置された協議会などの場で、沖縄を担当する大臣として、沖縄との橋渡し役を務めていきたいと考えています。跡地対策、北部振興、基地所在市町村の振興についても、地元の要望をお聞きしながら着実に推

進いたします。県民の皆様のご負担を軽減できるよう、これからも誠心誠意取り組んでいきます。

多くの沖縄の県民の皆様の声をしっかり伺い、新しい可能性も見つけながら沖縄の発展のため努めていきます。

■プロフィール

平成5年衆議院議員選挙で初当選。平成9年衆議院決算委員会理事、平成10年衆議院決算行政監視委員会理事、同年通商産業政務次官、平成11年衆議院災害対策特別委員会理事、平成12年衆議院科学技術委員会与党筆頭理事、平成13年衆議院文部科学委員長、平成14年衆議院日本国憲法に関する調査特別委員会小委員長、同年経済産業副大臣を歴任。平成18年安倍内閣において、沖縄及び北方対策を担当する内閣府特命担当大臣に就任（9月26日付け）。

奈良県出身

副大臣及び大臣政務官のプロフィール

内閣府副大臣に
平沢 勝栄 氏が就任



平成18年9月27日付けで、沖縄及び北方対策を担当する内閣府副大臣に、平沢勝栄氏が就任された。

■プロフィール

平成8年衆議院議員選挙で初当選。平成13年防衛庁長官政務官、平成15年総務大臣政務官、平成17年衆議院北朝鮮による拉致問題等に関する特別委員長を歴任。平成18年安倍内閣において、内閣府副大臣に就任。

東京都出身

内閣府大臣政務官に
谷本 龍哉 氏が就任



平成18年9月27日付けで、沖縄及び北方対策を担当する内閣府大臣政務官に、谷本龍哉氏が就任された。

■プロフィール

平成12年衆議院議員選挙で初当選。平成15年衆議院国際テロリズムの防止及び我が国の協力支援活動並びにイラク人道復興支援活動等に関する特別委員会委員、同年衆議院外務委員会理事、平成17年衆議院総務委員会理事を歴任。平成18年安倍内閣において、内閣府大臣政務官に就任。

和歌山県出身